

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



WDSF世界ユースブレイキン選手権

平成30年度定時社員総会・理事会

2018ダンススポーツグランプリin大阪

2018全日本選手権10ダンス・PDグランプリカップ



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2018 No. 88





来たときよりもキレイに!

~スポーツの心、環境と未来へ~



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会



WDSF世界ユース ブレイキン選手権開催!

(WDSF World Youth Breaking Championship)

2018年5月20日(日) / カルッツかわさき(川崎市スポーツ・文化総合センター)



男子優勝 Shigekix



女子優勝 Ram

大盛り上がり場の会場



メインオープニングにて齊藤斗志二
JDSF会長と福田紀彦川崎市長の挨拶



川崎駅の告知看板



WDSFルーカス会長と入賞者、
及び審査員

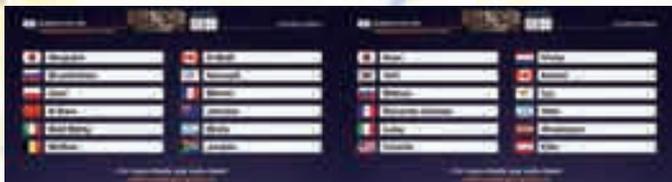
ブエノスアイレスユースオリンピック2018世界最終予選となる
「WDSF世界ユースブレイキン選手権」が盛大に開催されました。

ブエノスアイレスユースオリンピック2018世界最終予選 「WDSF世界ユースブレیکن選手権」開催



ブレیکنングダンス部長 石川 勝之

5月20日(日)、川崎市の特別協賛、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)の主催により「カルッツかわさき」において開催され、ユースオリンピック本番のファイナルステージ出場選手男女各12名が決定しました(今後、各国代表枠1名のため、若干の変更があるかもしれません)。



私の心の中の想い

オリンピックを観てブレیکنを始める子どもたちも沢山いるでしょう。素晴らしいことです。でも輝かしい一面だけではなく、B-Boy B-Girlとして、Hip-Hopのカルチャーを通して得られる「素晴らしいこと」を、ダンスの踊り方以外にも次の世代へと、さらにしっかり伝えていかなければならないと強く想っています。ただ、今までブレیکنを「カルチャー」としてとらえて作り上げてきた人たちのことや、このカルチャーによって人生が変わり、本当にカルチャーを愛してやり続けている人の気持ち、下の世代を真剣に考え伝えていくという気持ちを無視しては、オリンピックになってほしくない! と私は思っています。このシーンを大切に作り上げてきた人、時間を無視しないでくれ! というのが私の胸の内です。

ブレیکنの街・川崎

僕は「川崎市」で育ちました。川崎というのは、昔から「ストリートダンス」の町なんです。日本でも世界でも名だたるストリートの長たちが生まれてきました。

2年前、知人を通し川崎市役所へ資料を持ち出かけました。そこで、このことを沢山話させて頂きました。

「川崎をダンスの町にしたいんです!」

役所の方も真剣に聞いて下さり、是非協力したいと言ってもらいました。福田紀彦市長の視察も実現しました。12年前にも、思いを伝えに一回だけ行ったことがありますが、その時は門前払いをくらったのを今でも覚えています。

ブレیکنはこれからも走り続けます!

私たちの中では、この大会の評価は素晴らしく、ネガティブな評価は全くなかった。スポーツとして、文化(カルチャー)として、両面で良かったという有りがたい評価です。子どもや若い層だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんまで、会場にいらしてビックリしました。

この世界ユースブレیکن世界選手権をここまで大成功に導き主導していただいたJDSF(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟)、「カルッツかわさき」や全面的にご協力をいただいた川崎市役所の皆様、さらに来日いただいたWDSF(世界ダンススポーツ連盟)のルーカス会長はじめ役員の皆様、そして運営に携わった野中泰輔実行委員長はじめブレیکنの仲間たち、さらに主役を務めた34の国と地域86名の選手

いよいよ本番!

世界ユース選手権本番! 朝から緊張しまくり! ドアオープン10時には、早くもお客様の行列が…。この日の観客約2,500名、B-Boys B-Girlsの子どもたちから年配の方々まで足を運んでいただき、正直、驚きました。

ここ数年でブレیکنが世界的に盛り上がり、B-Boys B-Girlsが劇的に増えてきている中、オリンピックに決まる前から、「バトルのルール作り」を形にさせ、世界大会としてやってきているイベントもあります。最初はブレイクに点数をつけることに違和感を覚えたB-Boys B-Girlsは沢山いたと思いますが、その中でもカルチャー面の気持ちを込めた採点方法(トリヴィウムTRIVIUM DDD87号P10参照)になっていることから、意外とシーンにいるみんなには受け入れられてもらっていると感じています。

バトル(競技)開始

ステージもスタンバイです。すでに特有のBGMが流れるステージは暗転から演出照明へ。眩いばかりのカラフルな照明とピンスポットのステージへ。

11時、バトルの開始、ステージもスタンバイ。ブレیکنに新たな歴史を飾る最も大事な音楽を流すDJは、経験豊かなTee(角田頼泰)。そしてこの場を仕切るMCは、KENSUKE(新井健介)とMSZ(高島三鈴)の二人です。

ビデオ審査による一次予選、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの大陸別二次予選で選ばれた34の国と地域86名(男子58名、女子28名)による1人1ムーブ(演技)のPHASE 1(予選ラウンド)。そして、PHASE 2(グループリーグ)は男子32名、女子16名に絞られ、男子は8名4グループに分かれ、女子は4人4グループに分かれて1名2ムーブ×3回のバトルにより、男子8名、女子8名が勝ちあがり、PHASE 3の決勝トーナメントで男女の優勝1名ずつが決まります。

決勝トーナメント

日本代表選手男子3名、女子2名の内、男子1名:半井重幸(Shigekix)、女子2名:河合来夢(Ram)、川崎麗(Uruha)が決勝トーナメントに進みました。

川本陸(Riku)と金森翔也(Shoya)は2次予選グループリーグまで進みましたが、残念ながら決勝トーナメントには進出なりませんでした。



諸君と観客の皆様、すべての皆様に感謝申し上げます。

そして10月のアルゼンチン・ブエノスアイレス第3回ユースオリンピック大会に向け、金メダル獲得のために、そして、その後の2024年パリオリンピック・ダンススポーツ競技の正式種目実現に向けて、私たちプレイキン仲間とまだまだ突っ走ります！ 未知の世界への挑戦です。誰もやっていない領域まで「常にスタート」の気持ちを忘れずに。

日本選手の活躍

★男子優勝 半井重幸(Shigekix)ユース五輪日本代表に決定

出身：大阪府大阪狭山市/生年月日2002年3月11日/大阪府立園芸高校

B-Boys final 男子決勝戦 (対 Bumblebee ロシア)

Shigekixは、ずば抜けて体力があった。クラッシュがほとんどなかった。細かいクラッシュがあっても立て直すパワーがあった。フットワークもグッド、スレッド(THREAD)とかの技も組み込まれている。スタイルムーブとパワームーブの繋ぎ、大きな技と細かい技、バランスが非常に良いし、次のムーブが読めない意外性もある。小さい頃からの練習で筋肉も付いてプレイキンの体型になっているのは凄い。

Bumblebeeは1ムーブの最初にクラッシュしたので、これで勝てたと思った。練習量の差、ネタの多さを誇るShigekixは、見たことがないような動きがあった。Bumblebeeの技は、どれも似たり寄ったりに感じられた。



優勝 Shigekix (日本)



準優勝 Bumblebee (ロシア)



第3位 Bad Matty (イタリア)



B-Boys表彰式



REGSTYLE 二本の縄を操りプレイキン縄跳びを披露



FORMER ACTION (パントマイムの動きなど) 多彩な技を披露



THE BBOY LEGENDS 日本にHIP-HOPカルチャーを根付かせた初期の立役者たち



THE FLOORRIORZ 野中泰輔大会実行委員長を中心に世界大会3連覇中の川崎が誇る世界最強のスターチーム

★優勝 河合来夢(Ram)ユース五輪日本代表に決定

出身：神奈川県横浜市/生年月日2001年4月11日/神奈川県立百合ヶ丘高校

B-Girls final 女子決勝戦 (対 Matina ロシア)

Matinaは長い髪、ルックスも良く可愛くて良かった。日本のファンが沢山ついたそうです。一方のRamはまず体力がずば抜けてあった。切れも最後までまったく、落ちない。パワームーブの技の最高峰とも言われている大技エアートラックスを連続で決めた。女の子では珍しい。それを完璧に決めた。さらに余裕感！ なんでこんなに楽しんでやってるの？ っていうのが見えた。曲によって踊り方を微妙に変えている。極限の状態の場で、練習の場の踊りをそのまま出せたのが凄い。さらに初めて聴くDJが選んだ曲に合わせて、音楽を表現する、ミュージカリティも凄い！ Matinaも良かったが、技をやるのが目標に見えた。Ramは音楽に合わせて踊り、フリースタイルでも踊れる、大技も出せるところが、決定的な差となった。



優勝 Ram (日本)



準優勝 Matina (ロシア)



第3位 Munseo (韓国)



B-Girls表彰式

★川崎麗(Uruha)B-Girls決勝トーナメント第4位

Uruhaは独特の体の柔らかさで、音楽を上手く表現し、よく準決勝、3位決定戦まで勝ち進んだ。3位決定戦ではステージに上がっての仕草から疲れが見えたのが残念だった。技の難易度は基本的にはハイレベルではないがステップ感、グルーブ感(いわゆる「ノリ」)が優れている。スキルはないが、ダンスが上手いというタイプ。体力と大技を身に付ければ、優勝でもおかしくはない。



第4位 Uruha (日本)

ウエルカムパーティ

5月19日、川崎日航ホテルにおいて、ウエルカムパーティが開催されました。

パーティに先立ち川崎市の山田長満商工会議所会頭や齊藤文夫観光協会会長、原隆オリパラ推進室長はじめ、川崎市のご来賓や役職者も加わりミーティングがありました。

冒頭、山田淳JDSF専務理事は「初めての経験なので、本当に勉強しながらやっています」と挨拶、齊藤会長は「組織委員会に竹田恆和JOC会長を特別顧問としてお迎えした。初めての試みであり、エネルギーを要する大変なメモリアルのビッグマッチです。WDSFルーカス会長もスイスから来られる。今日は英国のヘンリー王子のウエディングがロンドン近郊のウィンザー城で行われるというビッグメモリアルの日でもあります。成功を！」と挨拶。福田紀彦市長は「世界選手権を川崎で開催いただけることを誇りに思い感謝。川崎は世界ではあまり知られてないが、ブレイキンの世界では有名。私たちの街の誇りです。この若い街川崎をもっともっと盛り上げていきたい。明日は凄い大会になる、成功を祈念する」と挨拶されました。野中泰輔大会実行委員長からは「短い時間の中で、実行委員とJDSF、WDSFの良い協力があり大会を迎えることができた。明日はブレイキンが変わる歴史的な日。皆様方のご協力をよろしく」と挨拶がありました。

そして中森康弘JOC選手強化部長の乾杯でウエルカムパーティは開始。しばしの間楽しく賑やかに懇談は続き、最後は山田JDSF専務理事の“3本締め”で明日の成功と今後の発展を誓い合いました。



スイスから駆け付けたルーカス・ヒンダー WDSF 会長



野中泰輔大会実行委員長



中森康弘JOC選手強化部長の乾杯



山田淳JDSF専務理事の3本締め



ワークショップ

大会の前日“カルッツかわさき”の武道室においてウォーミングアップの後、家族も見守る中、ワークショップが始まりました。翌日出場する選手のみならず多くのチビッツB-Boy B-Girlも参加しました。実技の紹介や公開練習もあり子どもたちも大喜びでした。



ワークショップ風景



キラ星み〜つけた!

二人のチビッツB-Boy

(写真左)高崎光君(12歳)は幼稚園年長さんから、グレーの帽子をかぶった近藤勘太君(11歳)は小学1年生から、ブレイキンを始めました。ブレイキンを通してお友だちとなり、ワークショップの開催まで外のデッキで仲良く待っていたお行儀の良い二人です。将来のオリンピックメダルが期待されるキラ星です。

世界ユースブレイキン選手権優勝者記者会見

競技終了後、会場内の会議室で記者会見が行なわれました。既に、会見場にはテレビカメラも並び各社の報道陣が集まっています。20分ほどの記者会見のあとは、ドーピング検査場に向かいました。



記者会見風景、左端は広報の阿部将頭(sbe2funk)氏



優勝の二人

★B-Boy 男子優勝 半井重幸 (Shigekix)

「率直に嬉しい! 自分の中で重要視していた大会なので、予選から決勝まで勝てた喜びもありますが、ここまでの日常生活もしんどかったのが、今は優勝できて嬉しい。技術力プラス気持ちが大変と思うので、技術力は日頃の練習で、当日本番は、気持ちは誰にも負けてないという強い思いで臨んだので勝てたと思う。基礎体力作りにも取り組みました。今日の競技は、最初のほうは間隔が空き、後半は立て続けの競技で、体のコンディションも整えながら約9時間の闘いに臨みました。体力面の部分や細かい技のミスもあったので、オリンピック本番では100%の力を出したい!」

★B-Girl 女子優勝 河合来夢 (Ram)

「正直自分を信じてやったし、楽しめてできたので嬉しい。私の武器は気持ちと力強さなので、自分がどれだけ楽しんで踊れたかということと、19ムーブを踊りきれるような体力をつけてきた。海外選手のムーブを見て自分に足りないものも見つけたので、練習してオリンピックに繋がりたい。自分を信じてここまで来たので、準決勝までは楽しく踊れた。決勝はShigekix君から“笑顔で!”と言われたので、気持ちも楽になった。自分の地元の川崎で優勝できて本当に嬉しいし、地元でやるので勝たなきゃというプレッシャーもあったが、今は解放されてホッとしています!」

第1回 OKINAWAダンス祭り

2018年1月13日(土)／沖縄県総合運動公園メインアリーナ(沖縄市比屋根)

1月13日(土)、沖縄県ダンススポーツ連盟主催の第1回 OKINAWAダンス祭りが開催されました。会場は昭和62年の沖縄海邦国体で整備された沖縄県の総合運動公園で沖縄本島の中部地域に位置し、陸上競技場、J1サッカー競技場、テニスコート、競技用プールやレジャープールなどが整備された総合運動施設です。約700人のダンス愛好家が参加しました。



仲嶺副会長による
発表会の挨拶

ダンス祭り開催のきっかけは、昨年1月の理事会で通常連盟主催で行なっている200人規模のダンスパーティから1,000人規模のダンスパーティに拡大する提案があり、各サークルからのフォーメーションを出してフォーメーションコンペを開催してはどうかというアイデアが出されました。結果的にはコンペ出場のチームが少なく、コンペではなくサークルフォーメーション発表会ということで開催することになりました。その後、理事会でいろいろな意見が出され、最終的には社交ダンス以外のジャンルのダンスも含めた総合的なダンス発表会にしてはどうかということに。これは日本ダンススポーツ連盟の最近の取り組みである様々なジャンルのダンスとのコラボレーションという方向性に合致していることもあり、早速あらゆるネットワークを利用して、ヒップホップ、ブレイクダンス、フラダンス、フラメンコ、ベリーダンス、ジャズダンス、高校生創作ダンスの関係者とコンタクトしました。また、行政機関等へのアプローチとして、沖縄県文化観光部スポーツ振興課、公益財団法人沖縄県体育協会へ開催趣旨を説明し、後援名義使用の許可を頂き、報道機関へも情報提供を行ない、当日は琉球放送(RBC)、琉球新報、沖縄タイムスに取材をしていただきました。



大勢が楽しんだダンスタイム



スタンダードフォーメーション



ラテンフォーメーション



レディースラテンフォーメーション



ヒップホップを披露した子どもたち



フラメンコチーム



フラダンスチーム



ベリーダンス



車いすダンス

参加チームは35チームで総勢327人の参加者がダンスを発表しました。その中で社交ダンスとヒップホップが大半を占めていますが、一方ではブレイクダンス、サルサ、フラメンコ、フラダンス、ベリーダンスと様々な踊りも披露されました。特に子どもたちのヒップホップや若い世代のブレイクダンスの躍動的な踊り、サルサ、フラダンス、フラメンコ、ベリーダンスの大人のムード溢れるダンスに、大きな声援と拍手で盛り上がりを見せていました。一方で、各サークルからの社交ダンスチームは日頃の練習の成果を十二分に発揮し、ラテン、スタンダードフォーメーションの素晴らしいパフォーマンスで会場を盛り上げていました。

プログラムの最後には「藤井創太&吉川あみ」カップルにスペシャルデモンストレーションをお願いすることができ、今回初めてのダンス祭りに華を添えることができました。お二人の素晴らしい踊りに会場は興奮の渦に巻き込まれ、ダンス愛好家の参加者はもちろん、ヒップホップの子どもたちや若い世代に大きな感動を与えたことと思います。ダンス祭りの模様は、地元新聞2社に記事掲載され、テレビ局のRBCニュースでも放映されました。



藤井創太&吉川あみ組によるラテン、スタンダードのスペシャルデモンストレーション

今回はダンススポーツをはじめ、様々なジャンルのダンスとコラボした楽しく、感動的で輝いた素晴らしいダンス祭りになりました。JDSF沖縄としては、今回企画した「OKINAWAダンス祭り」を契機に、沖縄の様々なジャンルのダンスがオールOKINAWAで更に発展していくことを期待しています。(沖縄県DS連盟副会長 仲嶺英世)



軽快なヒップホップダンス

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) 2018年度定時社員総会

定時社員総会は、6月24日、14時から東京ビッグサイト101号会議室で開催されました。総会に先立ち、齊藤斗志二会長は「北海道から沖縄まで“オールジャパン”の皆様、お集まり頂き感謝。来年の社員総会は、新しい年号での開催になります。JADA（日本アマチュアダンス協会）設立から41年、JDSF（日本ダンススポーツ連盟）創立から19年、社団法人格をとってから16年、現在の公益社団法人となって7年になります。皆様方のご活躍により、オールジャパンのJDSFは、しっかりした活動を広めているところです。皆様方のご支援を頂きながら、世界に羽ばたくダンススポーツ連盟にしていきたい」と挨拶がありました。

さらに、ご出席の学識経験者並びに監事の皆様からご挨拶がありました。

田邊重光副会長：今から3年前にPDが発足した。皆様方の心温まるご支援により大きな組織になり



つつある。心から感謝申し上げる。もっと頑張っけて千名の会員組織にしたい。さらなるご支援を！

中井眞一郎副会長：一般社団法人からの理事です。引続きさらにお役に立てるように努力してまいります。

市原則之理事：今、世界はアーバンスポーツが増えつつある。オリンピックプログラム（競技）にも取り入れようとする方向にあり、ブレイクダンスもそこに加わっているような状況下である。ダンススポーツが近い将来オリンピックになるようにご尽力いただきたい。

館博理事：学連の会長として、学生は卒業するとダンスをやめる傾向にあり2千名がやめていくのはチョットもったいない。今、洗脳しているところ。学生が卒業して各地域に行きましたら受入れをよろしく。

鈴木一夫監事：私は会計全般、事業監査は小林克実監事と武永実花監事が担当しバランスのとれた監査ができています。また、各業務執行理事にもご協力いただいている。これからもよろしくお願ひします。齊藤斗志二会長 山田淳専務理事



続いて岸尾政弘総務部長から定足数の確認があり本日の総会が成立した旨の報告がなされ、議長に長谷川守夫福島県連盟正会員を選出し議案審議に入りました。

第1号議案 2017年度事業報告及び決算の件

山田淳専務理事より事業報告、尾崎弥生経理課長から決算の説明、鈴木一夫監事から監査報告があり賛成多数で可決されました。

第2号議案 定款変更の件

山田専務理事から、「助成」事業を明確にするために定款第4条第3項の、育成のあとに“・助成”を追記するとの趣旨説明があり、賛成多数で可決されました。

第3号議案 2019年度正会員選挙に関する選挙管理委員長等の選任の件

金子和裕常務理事より、高橋和代氏（埼玉県）が選挙管理委員長に、吉川英司氏（茨城県）、岸尾政弘氏（事務局）鴻巣久枝氏（事務局）の3名が選挙管理委員に選任されました。

以上で議案の審議は滞りなく終了しました。

山田専務理事より下記の報告事項がありました。

報告事項1 定款に助成事業を付加したことに伴い、「未来ダンスアスリート助成事業」を新設し、他資産との独立性を確保するため、積立資産として特定資産を保有する。

報告事項2 選手選考委員会規定に基づき選手選考委員に、田邊重光氏、中森康弘氏、水村真由美氏、赤羽綾子氏、山下りえ子氏の5名を選任。

報告事項3 2018年4月6日から8日までの3日間、広島市においてFISE WORLD SERIES HIROSHIMA 2018が開催された。JDSFは協力団体としてBreaking（ブレイクダンス）を実施、さらにIOCの方向性、アーバンスポーツの傾向について報告。

報告事項4 ユースオリンピック最終予選となる世界ユースブレイキン世界選手権の結果報告（本誌P1～4参照）。

会員からその他の意見として、一部の団体の競技会の審判員の公平性や透明性、さらにそれらをJDSFが公認することの公益性等について意見があり、執行部から早い時期に一本化していく方向で今後検討していく旨の説明がありました。

総会に先立ち講演会と「持続可能な組織経営を考える」事例紹介が行なわれました。



講演会 「国内競技団体（NF）における有効なガバナンス・コンプライアンスの構築」

講師の高橋陸雄氏は、著名なコンサルタントであり、公益在団法人日本オリンピック委員会NF総合支援センター室プロジェクトマネージャー、シニアコンサルタントを務められています。講演の最初は、「自覚」と「認識」の相違でした。内容的には、自覚とは自らの置かれた立場を理解すること、そして認識とは行うべきことを理解すること。NFとしてダンススポーツを統括するJDSFにとって、そのふたつの意識を持つことが重要であり、そ



講師の高橋陸雄氏



ううえで、特別な権限を独占的に有するスポーツ団体として存続し続けなければならない。NFの本質的特

質から、JDSFは最高レベルのガバナンスとコンプライアンス基準を定め運用しなければならない。一般的に「法令遵守」と理解されるコンプライアンスはNFにとっては最低限の倫理・道徳に過ぎず、理想像として追求すべきガバナンスには公平性、透明性を備えた高度な誠実さなどが求められるというお話でした。

[事例紹介]

講演に続き、持続可能な組織運営を考えるための指針となりうる2件の事例が紹介されました。秋田幸子理事が取り上げたのは、世界ユースブレイキン選手権(本誌P1

～4参照)。そして新川利雄沖縄県ダンススポーツ連盟会長より、本年1月に実施された「第1回OKINAWAダンス祭り」の事例について説明がありました。(本誌P5参照)



新川利雄沖縄県ダンススポーツ連盟会長

1回OKINAWAダンス祭り」の事例について説明がありました。(本誌P5参照)

全国代表者・正会員会議

6月23日(土)の13時より、東京都江東区有明の東京国際展示場101会議室において開催されました。

岸尾政弘総務部長の司会進行のもと、まず、JDSFの近況報告として、最初に山田専務理事から説明がありました。

第一は「中長期課題の確認と進捗状況」。最大課題であるダンス人口の高齢化と激減、県連等役員の高齢化、後継者の不在等に伴い公益法人としての目的、あり方の再確認とオリンピック種目採用、国体正式種目化への施策状況に加え、新たな未来ダンスアスリート育成助成事業の紹介が行なわれました。これは公益法人JDSFに求められる公益事業転換への施策ともなります。

中道俊之理事による「国民向け事業の推進」報告は「ドリームステージの全国展開構想について」と「社交ダンス部創設について」の内容でした。ドリームステージは、技術認定制度等のイノベーションとして、従来の会員限定から対象を国民全体に拡大したWDSF教本に準拠するJDSF最上位の学習プログラムです。また、社交ダンス部の創設は、競技スタイルに重きを置いてきたJDSFの活動を文字通りの「社交」へと広げようとする試みとなります。公募等によって集まった部員は65名。スタッフ・メンバー・パートナーに再編し、その活動を全国へ紹介し国民へのエンジョイダンス普及を目指す旨と説明がありました。

設置間もないPD部門は順調に拡大しつつあり、玉置朝啓理事の報告がありました。PD発足3年、会員数、認定教室も順調に拡大している。PD公認のランキングポイント競技会、全国PDブロック調整会議などの実施に加え、PD中部ブロックも本格的に活動を開始しました。その他、WDSF-PD競技会への派遣、競技会以外の事業についても説明がありました。

渡辺英美理事のマーケティング報告を経て、休憩を挟み、JDSFの構造改革と会員管理について報告がありました。

まず、中道理事は委員会の職務に言及しました。会員構成のあり方、連盟の機能や事業の見直し、新規事業領域への展開、事業モデルの再定義・再構成、コスト削減と事業効率化等です。そして、会員制度改革に関わる会員サービスセンター設置については、佐倉文彦理事から説明がありました。これはJDSFへの個人登録制度の運用開始に伴って発生する、都道府県連盟個々の事務手続きの複雑さを回避するための機能でもあります。2019年からの運用を準備しており、サービス内容とセンター利用料、登録手数料、



移籍手数料などについて、都道府県連盟との共存が果たせるよう今後ともシミュレーションを重ねていく予定であることが報告されました。

報告の最後は山田専務理事による、公益法人としてのガバナンスと方向性についての説明となりました。JDSFの公益法人化に伴うさらなる実態追求の必要性和、指導員研修会ならびに公認競技会の委任と助成について、現状の問題点と解決の方向性についての考え方が示されました。

以上の報告事項に続き、各会員からの質疑と応答へ。主な質問は、新たに発足を予定される会員サービスセンターと、内閣府の指摘に基づく公益法人にふさわしい事業のあり方、公認競技会と、協力関係にあるプロ諸団体との調整等についたものでした。以上をもって定刻の17時30分、会議終了となりました。

懇親会

会場をホテルサンルートに移し、18時から懇親会が開催され、20時の散会まで活発な意見交換が行なわれました。

関東甲信越ブロック



乾杯の首領はJDSF-PD 奈良県阪田麗二会長



北海道&東北ブロック



九州ブロック

定例理事会

5月27日(日)14時から連盟事務所のDTCにおいて開催されました。齊藤斗志二会長の世界ユースブレイキン選手権が大成功だったことなどの挨拶があり、総会審議事項を中心に審議され、諸報告も行なわれ、15時過ぎに終了しました。



日本体育協会から日本スポーツ協会に!

趣旨説明とシンポジウム



公益財団法人
日本スポーツ協会
伊藤雅俊会長

「日本体育協会」は平成30年4月1日をもって「日本スポーツ協会」と名称変更を行ないました。4月14日(土)、名称変更の趣旨説明と記念シンポジウムがグランドプリンスホテル新高輪において開催されました。最初に、公益財団法人日本スポーツ協会(旧日本体育協会)

伊藤雅俊会長(味の素株式会社社会長)よりご挨拶、続いて下記の変更の趣旨説明がありました。

1911年、本会初代会長の嘉納治五郎は、国民体育の振興とオリンピック競技大会参加に向けた体制整備のため、大日本体育協会(当時)を創立しました。その当時、「体育」は身体の教育という大きな営みを指し、スポーツを含む広義の意味で捉えられていましたが、1964年の東京オリンピック以降、スポーツが広く人々や社会に浸透し、発展してきたことによって、現在では「スポーツ」は体育や身体活動の概念を含むものと認識されるようになりました。

また、本会はこれまで、「体育」の意義や教育的価値

の重要性を尊重しつつ、「スポーツ」を振興し、その価値を高める役割を担ってきました。

社会のスポーツへの関心や期待がますます高まっていく中で、本会がわが国、スポーツの統一組織として、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツという文化を後世に継承していくには、本会の名称を「日本スポーツ協会」に変更することがより相応しいと考えました。

さらに、スポーツ界では、スポーツ選手の法令等の順守、スポーツ団体のガバナンスの充実、運動部活動の持続可能な環境づくりへの協力など、多くの課題が山積しております。また、国は2017年「第2期スポーツ基本計画」を公表し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、スポーツ参画人口の拡大による「一億総スポーツ社会」の実現を目指しており、スポーツの意義と価値を守り広め、さらに大きく育てていかなければならない状況にありますと、趣意書の要約にも変更理由などが記されています。

引続きシンポジウムが開催され、名称変更の経緯などを皮切りに、スポーツの意義と価値、日本スポーツ協会の使命など整理し、それぞれの立場から経験など踏まえて、これからの期待感などの意見が交換されました。

DDD60号に掲載された日体協・JOC創立100周年記念祝賀式典

日本体育協会・日本オリンピック委員会
創立100周年記念祝賀式典

日本のスポーツ 100年

第31回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

2011年9月11日(日) 8:30~20:00
東京体育館

TEL: 03-6457-1858 FAX: 03-6457-1857

主な名称の変更の変遷と目的

- 1911(明44)年** 大日本体育協会 英文名 無し
- 1921(大10)年** 大日本体育協会 (The Japan Amateur Athletic Association)
- 1960(昭35)年** 財団法人日本体育協会 (Japan Amateur Sports Association) 「Athletic」の語義が陸上競技を指す場合が多いため「Sports」へ変更
- 2005(平17)年** 財団法人日本体育協会 (Japan Sports Association) スポーツの商業化・プロ化の流れを受け「Amateur」を削除
- 2011(平23)年** 公益財団法人日本体育協会 (Japan Sports Association) 公益財団法人への移行
- 2018(平30)年** 公益財団法人日本スポーツ協会 (Japan Sports Association) 目的は、下記のとおり

2005(平17)年 この法人は、わが国、国民スポーツの統一組織としてスポーツを振興し国民体力の向上を図り、スポーツ精神を養うことを目的とする。

1911年(明治44年) 講道館の創始者であり日本人初の国際オリンピック委員会 (IOC) 委員を務めた初代会長の嘉納治五郎氏は当時の趣意書に、体育(スポーツ)振興の必要性について、「内は以て我國民体育の發展を図り、外は以て國際オリンピック大会に参加するの計畫を立てん」と書かれています。

以来、日本のスポーツは目覚ましい發展を遂げました。

日本のスポーツ100年

2011年創立100周年を記念した式典・レセプションがグランドプリンスホテル新高輪において天皇・皇后陛下ご臨席の下に、IOCジャック・ロゲ会長はじめ28名のIOC委員、2010年中国広州アジア競技大会でダンススポーツが初めて正式競技として実現したアジアオリンピック評議会 (OCA) シェイク・アハマド・アルサバーハ会長 (クウェート) や特別功労者表彰の故山口繁雄 JDSF 参与等の関係者も出席。会場は約1,200名の人々で埋まりました。この日は石原慎太郎東京都知事から2020年東京オリンピック招致の正式表明があるなど多彩な1日でした。

100周年を記念した公式DVDに、ダンス界で唯一人日本スポーツグランプリ受賞の故山口繁雄 JDSF 参与が、歴代受賞者の代表4名の中の1名として収録されています。

(JDSF広報部顧問 神宮周二)



「日本のスポーツ100年」に収録の故山口繁雄参与



100周年を記念した公式DVD「日本のスポーツ100年」

大好評! NEW プラクティスウェア



ストレッチデニム
ボールルームパンツ

No.TD6001
価格 ¥17,800+税
カラー:ブラック&ネイビー
サイズ:73・76・79・82・85 (cm)

※フロントとバックは折り目が消えないセンターシーム仕様

東京・秋葉原



エンビのトリキン

東京トリキン(株)

TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033

<http://www.torikin21.com>

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1

営業時間/月~金 10:00~18:30

土日祝 10:00~17:30

定休日:毎週水曜日



スリムニットストレッチシャツ

※ご家庭の洗濯機で丸洗い後ノーアイロンで着用できます

No.TT5075
価格 ¥9,900+税
カラー:白・黒・グレー・ワイン・紺
サイズ:S(37-78)・M(39-82)・L(41-84)・LL(43-86)

2018ダンススポーツグランプリ in 大阪

2018年5月13日(日) / 大阪府池田市不死王閣グリーンホール



大阪駅(梅田駅)から阪急電車で25分、阪急池田駅から車で約15分、大阪とは思えない自然の山に囲まれた天然温泉が湧く池田市で、グランプリ大阪が開催されました。新緑も爽やかな季節でしたが、大会当日は朝から生憎の雨模様となったにもかかわらず、お客様の出足は早く、会場のグリーンホールは午前10時頃には満員状態となりました。2015年からここ不死王閣グリーンホールが大阪グランプリの開催会場となり、会場の認知度が進んだこと、ダンススポーツグランプリ

と並びPDグランプリカップも昨年から開催されていること、そして、今年のシニアIラテン戦には、TBS系TV番組「中居正広の金曜日のスマイルたちへ」の特番などでお馴染みの岸英明(ロペス)・田中志保(キンタロー)組の出場があったことが大きな要因です。

朝8時45分、天道貞一大会実行委員長(大阪府DS連盟会長)の開会宣言で熱戦の火ぶたは切られました。

グランプリスタンダード

三笠宮杯3連覇を狙う日本を代表するスタンダードチャンピオンの小嶋みなと・盛田めぐみ組は、海外でも成果を上げつつあり、国内では連戦連勝が続き、まだ26歳と25歳でカップル歴14年の二人は日々成長を続けています。本日も、大西大晶・大西咲菜組との優勝争いとなりましたが、5種目すべてに1位の得点を獲得し、小嶋組が優勝に輝きました。大西組は全種目2位となり準優勝。第5位の棚橋健・盛田舞香組の舞香さんは、優勝した盛田めぐみさんの妹で、決勝のフロア上で珍しい姉妹対決も話題になりました。



大西大晶・大西咲菜組
(富山県)



五月女光政・五月女叡佳組
(ブルボンDST)



山田恭平・秋山彩織組
(東京都)



棚橋 健・盛田舞香組
(東京都)



石垣和宏・三喜穂菜美組
(ブルボンDST)



喜びの小嶋・盛田組

「海外での試合や練習が今日の結果に繋がったと思います。今後も海外の競技会にトライしていきます!」



小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)

シニアI選手権 ラテン

海外の競技会でも大活躍、すっかりTVでお馴染みとなった岸英明・田中志保組(ロペスとキンタロー。のペア)の登場に館内は騒然。シニアチャンピオン大先輩の名越組に果敢にチャレンジしました。厳しい練習の成果でしょうか。すっかり体も引き締まり、筋力も付けたロペス組はサンバ、チャチャで1位を獲得、名越組もルンバとパソで1位となり大接戦。そして5種目のジャイブを制したロペス組が微差で勝利を掴み取りました。優勝がコールされた瞬間、二人とも涙、なみだ、ナミダで、表彰式に臨みました。



岸 英明・田中志保組(東京都)



名越慎悟・名越明子組(神奈川県)



宗形隆史・宗形葉子組(埼玉県)



- 優勝 岸 英明・田中志保組(東京都)
- 準優勝 名越慎悟・名越明子組(神奈川県)
- 第3位 宗形隆史・宗形葉子組(埼玉県)
- 第4位 白井泰昭・石井かおり組(神奈川県)
- 第5位 永井孝明・永井優子組(茨城県)
- 第6位 吉田宏史・大西那奈組(東京都)

PDグランプリカップ ラテン

久保田弓椰・徳野夏海組が安定した力を発揮し、優勝に輝きました。表彰式の後は、「ジュニアクラブ大阪」の子どもたちとPD選手たちとサンバに合わせて踊り、喜びを分かち合うシーンも見られました。



- 優勝 久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA 北海道)
- 準優勝 西 恭平・西川真由組
(シノダ・スポーツダンスクラブ)
- 第3位 新屋秀和・滝川絵理組
(シヤダンススタジオ)
- 第4位 魚谷征義・宮島 愛組
(Studio La mer)
- 第5位 上原伸之・家入由佳組
(DoA Studio)
- 第6位 早崎正剛・早崎裕美組
(ダンス夢ファクトリー)



久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA 北海道)



西 恭平・西川真由組
(シノダ・スポーツダンスクラブ)



新屋秀和・滝川絵理組
(シヤダンススタジオ)



優勝の久保田組、PD選手と
ジュニアクラブ大阪の子どもたち

ジュニア スタンダード



木下将希・片岡まりの組(千葉県)



山本壮真・三喜真梨菜組(Jスリートクラブ)

ジュニア ラテン



川本 竜・足立心優組(奈良県)
(同St 3位)

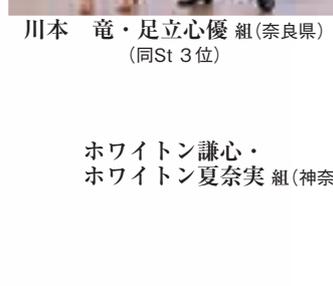


高橋 海・和田享華組(千葉県)

シニアⅡ A級戦 スタンダード



長辻慎一・
長辻みどり組(大阪府)



ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実組(神奈川県)

B級戦 スタンダード



伊加井義弘・
伊加井真弓組(兵庫県)

B級戦 ラテン



荒木力忠・
鈴木結衣組(大阪府)

和歌山県知事杯争奪

第39回ダンススポーツ選手権大会 (A級西部ブロックランキング戦)

2018年4月1日(日) / 和歌山市片男波公園「健康館」

和歌山県は、大阪府、奈良県などに隣接、日本最大の紀伊半島の西側に位置し、豊かな山、豊かな海、自然に恵まれた土地、そして高野山などの名所旧跡も多く存在する県です。そして何よりも、東京オリンピックの翌年、2021年5月のアジア初開催となる、原則30歳以上であれば誰でも参加できる一般参加型生涯スポーツ世界大会「第10回ワールドマスターズゲームズ」が関西地区で開催され、ダンススポーツ競技は和歌山市ビッグウェーブにて開催が決定しています。



大会ポスター

春爛漫、桜も満開の4月1日、和歌山県知事杯争奪第39回ダンススポーツ選手権は、和歌山市の南にある片男波公園内

の「健康館」において開催されました。宮田真吾和歌山市文化スポーツ部長が「ダンススポーツは高い芸術性のあるスポーツであり、県民に広く親しんでいただければ幸いです」と祝辞を述べました。また、世耕弘成経済産業大臣からの祝電も披露されました。

続いて尾花正啓和歌山市長は「私も大学時代にダンスを習いましたが、長続きしませんでした」と笑顔で話されました。

競技は延216組が出場し、A級スタンダードなど12競技が行なわれ、朝10時から熱戦が繰り広げられました。

写真は延216組が出場し、A級スタンダードなど12競技が行なわれ、朝10時から熱戦が繰り広げられました。



宮田真吾和歌山市文化スポーツ部長



川口勝也和歌山県教育庁生涯学習局スポーツ課副課長



審判員



写真左から野田尚児会長、尾花正啓和歌山市長、山下直也和歌山県議会議員、中尾茂樹副会長

和歌山県知事杯 A級戦スタンダード



- 第4位 加藤修久・加藤裕子 組(大阪府)
- 第5位 植村和正・植村澄子 組(京都府)
- 第6位 大矢部廣昭・中川弘美 組(大阪府)



川本 竜・川本弥由 組(奈良県)



竹内厚人・竹内妙子 組(大阪府)



松林 勝・藤めぐみ 組(滋賀県)

和歌山県知事杯A級戦スタンダード優勝の

川本 竜・川本弥由 組(奈良県)

16歳と14歳の姉弟ペアです。おじいちゃんに誘われてダンスを始めました。今日は大人ばかりの中でしたが、100%の力を出せたと思います。夢は日本チャンピオンになることです。



シニアII A級戦スタンダード



- 第4位 畑田 清・畑田洋子 組(大阪府)
- 第5位 田中克尚・田中秀子 組(和歌山県)
- 第6位 原 周司・西村美和 組(大阪府)



谷中和彦・金澤明子 組(大阪府)



大西清則・大西澄代 組(兵庫県)



成川行宏・彩木千鶴 組(和歌山県)

B級戦スタンダード



優勝

岡島雅明・岡島恵子 組(大阪府)

B級戦ラテン



優勝

市橋教男・市橋千賀子 組(徳島県)

シニアⅡB級戦スタンダード



優勝

吉増 亨・加納知子 組(和歌山県)

シニアⅢB級戦スタンダード



優勝

橋本圭司・橋本 薫 組(和歌山県)

C級戦スタンダードS1



優勝

河合貞男・奥ノ文代 組(大阪府)
(C級戦スタンダードS2優勝)

C級戦スタンダードS2



D級戦スタンダード



優勝

有井義一・橋爪清子 組(和歌山県)

D級戦ラテン



優勝

福井道剛・大野幸子 組(大阪府)

ノービス戦スタンダード



優勝

布居利章・吉田由紀子 組(和歌山県)

和歌山県知事杯 シニアⅡA級戦ラテン



- 第4位 金田好充・金田好美 組(和歌山県)
- 第5位 栗林幸範・左雲和子 組(大阪府)
- 第6位 谷中和彦・金澤明子 組(大阪府)



準優勝

鈴木真也・伊藤直美 組(京都府)



第3位

谷口主嘉・谷口小夜子 組(京都府)



優勝



和歌山県知事杯

大矢部廣昭・中川弘美 組(大阪府)

全東北学生競技ダンス

スタンダード4種目戦
並びにラテン4種目戦

円陣で気合を!

2018年6月17日(日)／山形大学第一体育館

6月17日(日)、第42回ラテン4種目戦並びに第45回スタンダード4種目戦が、山形大学第一体育館で開催されました。全東北学連の公式戦は春大会と秋大会はOBOG審査で行なわれますが、夏のこの大会は毎回トッププロを迎えて審査、さらには閉会式の講評に代えてミニ講習会、模範演技も行なわれ、学生だけではなく社会人、一般のダンス愛好の方々も参加でき大会終了まで楽しんでいただけの大会です。2011年東日本大震災以降、春の大会(主管：岩手大学)も同様に、社会人や一般の方々とはドレス姿や燕尾服の学生たちが一緒になって踊れるダンスタイムがあり、お客様にも楽しんでいただける時間を設けています。

全東北学連は、1971年(昭和46年)創立以来、秋田県からは加盟校が長らくありませんでした。東北唯一空白県だった秋田県ですが、秋田県ダンススポーツ連盟の山岡光廣副会長等のご協力もあり、一昨年、同好会でしたが秋田大学が加わりました。初代主将田口博崇君や栗原茉莉子さんの尽力により、昨年早くも体育系の正式な課外活動団体として大学に認定され登録されました。昨年より顧問に就任されたJDSFスタンダード現役A級の小原久教授のご指導の下、最上級生の3年生小野彰斗主将他1名、2年生10名、さらに今年も10名以上の新入部員を迎え、連盟にも新しい風を吹き込んでいただけるものと期待されています。

昨年の大会は審査員長に嶺岸昭志先生(統一全日本ブ

ロラテンチャンピオン、8年連続全日本10ダンスチャンピオン)、審査員に家泉尚樹・家泉朋美カップル(統一全日本プロスタンダードグランドファイナリスト)をお招きしましたが、今年は、篠田雅子先生をはじめ、JBDF(公益財団法人日本ボールルームダンス連盟)、JDC(公益社団法人日本ダンス議会)、JCF(NPO法人日本プロフェッショナルダンス競技連盟)、そしてJDSFという主要なダンス団体が勢ぞろいし、全東北学連史上初の7名ジャッジ構成となりました。これには大会会長の大澤弘典教授(山形大学顧問)もビックリ! 昨年12月号で休刊となりましたが、1985年創刊の「月刊ダンスファン」に4年間に渡りエッセイを連載された大澤教授は、JDSFのA級選手として現在もご活躍中です。

9時30分、小野寺海音実行委員長(山形大学)の開会宣言で開会式は始まりました。橋本大輝東部学連理事長(東京大学)が開発した新しいジャッジ採点システム(橋本スペシャル)を使用しましたが、不慣れのため、午前中の新人戦、ジュニア戦は大幅に遅延。3年前から正式種目に入れるべく行なう予定だったヴェニーズワルツ、ジャイブの単科戦競技は割愛されましたが、午後の競技は順調でタイムテーブルより早めに進行しました。

今年の新入部員は白のブラウスに黒のスカートで統一し、初の競技会ジュニア戦に臨みました。

全日本舞踏競技連盟の時代、12年間の競技生活でモダ



全東北学連の選手たち



初々しいジュニア戦



女性キャプテン山形大学小林千紗さんと日原和希さん。惜しくも決勝入りならず



神宮周二連盟副会長(慶應大学OB)



小野寺海音大会実行委員長



大澤弘典大会会長(山形大学教授)

ン(スタンダード)10回、ラテン5回の全日本優勝記録を持ち不敗のまま引退。1984年NHK教育テレビ最高視聴率といわれダンスブームを巻き起こした「レッツダンス!」の初代講師。現在も国際大会審判員としても活躍の日本競技ダンス界のレジェンド!



審判長 篠田雅子先生

いよ夢ではなくなりました。国体を開催する日本スポーツ協会(今年の4月1日から日本体育協会から改称)の準加盟から正式加盟も秒読みの段階に入りました。国体もデモンストレーション競技から正式種目競技へ大きく進展します。全東北学連もJDSFの加盟団体として、市原則之JDSF理事(元JOC副会長・専務理事)が強調されるスポーツに最も重要な3つの「F」即ちフェアプレイ、ファイトスピリッツそしてフレンドシップに則り、今後とも真摯な競技として実施されていきます。

(全東北学生競技ダンス連盟副会長 神宮周二)

講習会の講師 瀬古薫希・知愛組

ダンス界史上初のJOCから日本代表として派遣された2005年マカオ開催第4回東アジア大会金メダリストの瀬古薫希・知愛組(現日本プロフェッショナルチャンピオン)には講習会の講師さらに模範演技をお願いしました。

JDSFの「目指せオリンピック! 国体参加!」も、いよ



瀬古薫希・知愛組による模範演技

エ〜ホントに篠田先生の前で講習やるんですか〜!



審判員一同 篠田雅子(JCF)、伊藤明(JDC)、瀬古薫希(JDC)、瀬古知愛(JDC)、吉田剛(JBDF)、久我友美(JBDF)、神宮周二(JDSF)と大澤大会会長

団体戦総合成績

優勝	東 北 大 学
準優勝	弘 前 大 学
第3位	山 形 大 学



選手宣誓の伊藤秀太郎・坂詰七美組(山形大1年・山形大1年)

★スタンダード
4種目戦

昨年に続き中村組が2連覇を果たしました。全日本戦への期待が高まります。

中村亮・菊池亜樹組(東北大4年/宮城学院女子大4年)



優勝

★ラテン
4種目戦

春大会(5月5日盛岡開催)でチャチャチャ、サンバ優勝の木村組が4種目戦でも優勝!

木村龍太・加藤萌子組(東北大4年/東北大4年)



優勝



準優勝

工藤正俊・伊藤早紀組(弘前大3年/弘前大3年)



第3位

月館竜大・新明優芽組(東北大2年/宮城学院女子大4年)



準優勝

小島大輝・田中杏珠組(東北大3年/宮城学院女子大3年)



第3位

須藤泰河・内田未央組(東北大4年/東北大4年)



第4位

栗原清太・鈴木沙央里組(東北大3年/東北大3年)



第5位

水野康介・田中詩絵菜組(東北大4年/東北大3年)



第6位

柳原勇気・原絢女組(岩手大3年/岩手大3年)



第4位

佐藤広崇・新岡真結組(岩手大3年/岩手大3年)



第5位

佐久間翔太・千葉袖香組(山形大3年/山形大3年)



第6位

佐藤栄修・福士桃花組(弘前大4年/弘前大2年)

第21回 千葉県ダンススポーツ選手権大会

第2回 千葉県PDダンススポーツ選手権大会

2018年5月20日(日)／福太郎アリーナ(鎌ヶ谷市民体育館)

千葉県ダンススポーツ連盟が開催する大会は年に11回あります。県主催の2つの大会と各支部が主催する支部大会が5つ、その他に市町村のダンススポーツ協会が主催する大会が4つ。なかでも千葉県知事杯を戴く千葉県選手権大会は、千葉県チャンピオンを決める大会という位置づけであり、年末に表彰される千葉県最高殊勲選手の選考対象競技会にもなっていて、毎年、県内外から多くの選手のエントリーがあります。

今年の千葉県選手権大会は、爽やかに晴れわたる5月20日、鎌ヶ谷市の福太郎アリーナにて延べ300組を超えるエントリーをいただいて開催されました。開会式は渡辺英美実行委員長(千葉県連盟副会長)の開会宣言に続き、金城庸夫大会会長(千葉県連盟会長)が挨拶に立ち、同日に川崎で開催されているブレイキン(ブレイクダンス)のユース世界選手権のこと、7月に長野で開催されるWDSFシニアIV世界選手権のこと、JDSF本部で行なっているダンススポーツ医科学研究部のことなど、最近のJDSFの話題を織り交ぜての話をされました。続いて大会顧問をお願いしている、地元鎌ヶ谷市の清水聖土市長より祝辞をいただき、その後、渡辺英美チエアパーソンから競技上の注意事項の説明がありました。開会式の締めには、準備運動として千葉県の大会では恒例となっているラジオ体操を全員で行ないました。

この日は千葉県選手権のほか、B級、C級、シニアIIA級、シニアIIIA級がフロアを2面に分けて行なわれました。千葉県選手権については、三笠宮杯全日本ラテンチャンピオンで千葉県選手権ラテン、スタンダードとも3連覇中の藤井創太・吉川あみ組が、今年はWDSFユースラテンの世界選手権参戦のため海外遠征中で出場できず、両部門で新チャンピオンが誕

生することになりました。そして、選手権ラテンの決勝に勝ち残ったのは、千葉県3組、東京都3組となり、激戦の末、千葉県の海老原竜太・遊佐美優子組(エビハラダンススタジオ)が優勝し、栄光の千葉県知事杯を手に入れました。また、選手権スタンダードの決勝に勝ち残ったのは、千葉県2組、東京都3組、神奈川県1組となりましたが、優勝の栄冠は東京都の佐藤祐馬・久保田理沙組に輝き、4年ぶりに千葉県知事杯が江戸川を渡ることになりました。

また、同日開催された千葉県PD選手権では、今回、三笠宮杯11連覇の元全日本スタンダードチャンピオンと三笠宮杯8連覇の元全日本ラテンチャンピオンが組んだドリームカップル、石原正幸・石原蘭羅組(PD関東甲信越ブロック)が競技会にカムバックし、この千葉県PD選手権を国内での初戦としてエントリーし、今大会を盛り上げていただきました。石原組は千葉県の指導員研修会の講師としてお願いしているためファンも多く、1次予選から多くの観客でフロアサイドは埋め尽くされました。石原組はしばらく競技から離れていたとは思えない、ダイナミックかつ繊細なパフォーマンスと音楽表現で他の選手を圧倒し、国内の初戦を見事な優勝で飾りました。石原組を目当てに例年にも増して多くの観客に会場に集っていただきましたが、「今日はとても良いものを見せてもらった」と、満足そうでした。千葉県選手権は今年も見ごたえのある競技会となり、選手も観客も大いに楽しんだ1日でした。

(千葉県ダンススポーツ連盟広報部長 輿水洋一)



鎌ヶ谷市清水聖土市長の祝辞
金城庸夫大会会長の挨拶
渡辺英美千葉県DS連盟副会長



B級ラテン表彰式



B級スタンダード表彰式



シニアIIラテン表彰式



シニアIIスタンダード表彰式



シニアIIIラテン表彰式



シニアIIIスタンダード表彰式

千葉県PD選手権スタンダード



石原 正幸・石原 蘭羅 組(PD関東甲信越ブロック)



優勝

千葉県 ダンススポーツ選手権 ラテン

優勝

海老原竜太・遊佐美優子 組
(千葉県/エビハラダンススタジオ)



千葉県 ダンススポーツ選手権 スタンダード

優勝

佐藤 祐馬・久保田理沙 組
(東京都DSC)



千葉県PDダンススポーツ選手権

石原 正幸・石原 蘭羅 組(PD関東甲信越ブロック)

日本での最初の大会なので緊張もしましたが、沢山の方の応援をいただいてとても気持ちよく踊ることができました。優勝もできたのでとても嬉しいです。次は2週間後中部でPDグランプリが控えていますので、これからもトレーニングを積んで頑張りたいと思います。



千葉県ダンススポーツ選手権ラテン

海老原竜太・遊佐美優子 組(千葉県/エビハラダンススタジオ)

今日は優勝を狙ってきましたので、優勝できてとても嬉しいです。カップルを組んで10か月足らずですが、最近自分たちの調子も試合ごとに上がってきているので、このような結果を出せたことはとても励みになります。今日で三笠宮杯の出場権を獲得できましたが、三笠宮杯で良い結果を出すことが当面の目標です。また、これから機会があれば海外の試合にもチャレンジしたいと思います。



千葉県ダンススポーツ選手権スタンダード 佐藤 祐馬・久保田理沙 組(東京都DSC)

優勝できてとても嬉しいです。石垣・三喜組には先日のグランプリで負けていたので、今日はリベンジができました。今日は自分たちのコンディションも良かったのですが、お客様の声援がとても多くて驚きました。初めての方から応援されるのは自分たちの踊りが良く見えているのかなと、自信につながり力をいただいた感じがしました。実は私(佐藤祐馬さん)は千葉県出身なのでアウェイ感はまったくありませんでした。この先は国内の試合が続きますが、その後はデンマークにエマニエル先生のレッスンを受けに行く予定です。これからも大人の踊りを見せられるよう頑張ります。



2018 PD西部ブロック選手権

第3回プレミアダンス大会

2018年3月21日(水・祝)／阿倍野スポーツセンター

PD西部ブロック主催の競技会がサンエィワーク阿倍野スポーツセンターにて開催されました。今大会は発足以来3度目の大会となります。前回に引き続きダンススポーツフェスティバルとして、様々な分野のダンスパフォーマンスやワークショップ(体験会)も行なわれました。

あいにくの雨模様でしたが、入場者数は前回より400名多い延べ2,700名にも及び、観戦はもちろんのこと、様々なジャンルのダンス体験、そして素晴らしいパフォーマンスに会場は大いに沸きました。

PD部門はPD西部ブロックランキングポイント対象競技会となっており、白熱した戦いが繰り広げられました。その熱戦を制したのは、久保田弓椰・徳野夏海組(北海道)。久保田組はスタンダード部門・ラテン部門の両部門で優勝

を手にしました。また、ジュニア部門やシニア部門など、幅広い世代の方々に出場して頂き、大会を盛り上げてくれました。表彰式には、あべのキューズモールのキャラクター“あべのの住人アペーノアペーノ”も駆けつけてくれました。

そして特筆すべきは、今回サルサフリースタイル大会が関西で初めて併催されたことです。出場した選手達は各々にベストパフォーマンスを見せ、観客を魅了しました。これを機に、今後大勢のサルサ愛好家の方にも出場してもらうことを願っています。

次回10月14日(日)も同会場にて同じ規模での開催を予定しております。今後もGD西部ブロックと互いに力を合わせ、PD西部ブロック一丸となり益々大会の発展に尽力したいと思います。(西部PDブロック選手部 水島 寛)



PDオープン戦
久保田弓椰・徳野夏海組(北海道)



スタンダード



PDマスタークラスⅡスタンダード



ラテン

JDSF A級戦スタンダード



JDSF A級戦ラテン



サルサフリースタイル



会場を盛り上げた様々な分野のダンスパフォーマンス



2018全日本選手権10ダンス・PDグランプリカップスタンダード

(2018年世界10ダンス代表選手選考会・世界シニアII10ダンス代表選手選考会・WDSF-PDスタンダード世界選手権代表選考競技会)

2018年6月3日(日)／愛知県津島市文化会館

2018全日本選手権 10ダンス

10ダンス選手権は10種目競技を競い、一組のチャンピオンを決める、体力的にも精神的にも極めてハードな大会です。昨年の大会は、2015年の覇者でもある八谷組がラテン5種目、スタンダード2種目で1位を獲得し、スタンダード3種目1位の大西組をラテン競技で差をつけての、優勝となりました。

スタンダードで優位に立つか、ラテンで優位に立つか、まず競技成績は偏りがあるものですが、優勝候補の八谷組も菅原組ともに、10ダンス史上稀にみるスタンダード、ラテン全10種目ほぼ互角の勝負となりました。準決勝からはお互いに意識したかのように見せ場を作り、二組の大型カップルが織りなす迫力のある対決に場内は大いに盛り上がりました。スタンダード決勝が先に行なわれ、菅原組がスタンダード3種



山口剛競技本部長 挨拶
鈴木康介 大会実行委員長
毎原保信 チェアパーソン

目(W・Vw・F)で1位を獲得。その約2時間半後にラテンの決勝が始まりました。緊迫した競技が続く決勝のフロアで司会を務める山口剛競技本部長は、各パートナーの紹介の中で、「ラウラさんのLauraはイタリア語で月桂冠を意味します。日本では月桂冠はというと有名なお酒でもありますね!」と、大変流暢な英語で紹介。場内の張り詰めた雰囲気もこの一瞬は空気もなごみ緊張感がほぐれ、選手も少しは落ち着きリラックスできたのではないのでしょうか。緊迫の競技はラテンも菅原組が3種目(S・R・P)を制し、見事に初優勝に輝きました。準優勝は熾烈な優勝争いを演じた八谷組、第3位は10種目全てに3位の金井組が続きました。朝10時50分にラテン5種目から始まった10ダンス選手権は18時50分に終了。8時間の長丁場で今年も終了しました。お疲れさま!



齋藤嘉隆参議院議員
長年愛知県ダンススポーツ連盟の顧問を務め、超党派のスポーツ議員連盟でもご活躍の齋藤嘉隆参議院議員は「ダンススポーツが国民のスポーツとして根付いていきますように祈念します」と挨拶されました。

	スタンダード					ラテン					合計	
	W	T	Vw	F	Q	S	C	R	P	J		
菅原組	1	2	1	1	2	1	2	1	1	2	14.0	1位
八谷組	2	1	2	2	1	2	1	2	2	1	16.0	2位



優勝

菅原一樹・ラウラ コラヴィッツア 組(東京都)



準優勝

八谷和樹・皆川 円 組(千葉県)



第3位

金井大輝・甘利このみ 組(群馬県)



第4位

海老原竜太・遊佐美優子 組(千葉県)



第5位

安部邦斗・安部美咲 組(千葉県)



第6位

早坂優太郎・大久保京香 組(東京都)



10ダンス選手権優勝

歓びの菅原組とお母様の菅原久美子さん
菅原一樹・ラウラ コラヴィツア組

2016年2月にイタリアに旅立って2年4か月、現在は1歳年下のラウラさんの家に住み、海外のトップ選手たちと一緒に練習、毎週のようにヨーロッパ各地の競技会に出場という生活を続けていますが、所属は日本。身長182cmのスケールの大きな大型選手です。

「とにかく優勝できて嬉しいです。これからも八谷組とは勝ったり負けたりが続く良きライバルになると思います。出来る限り日本の大会にも出場したいと思います。ラウラさんは明日イタリアに帰り高校の卒業試験、その後は大学の入学試験です。僕は1か月位日本にいて少しのんびりするつもりです。イタリアの語学学校に通っていますが、来年、成人式を迎えます。そろそろ将来を考えないと…(笑)」



A級戦 スタンダード

全ジャッジからすべての種目に1位を獲得し完勝の小林組でした。

小林潤一・小林麻衣 組(富山県)



優勝



村上和穂・金子真弓 組(愛知県)
(中部ブロックシニアIISt優勝)



西尾正之・田中愛子 組
(長野県)



林 伸男・林 民子 組
(岐阜県)



吉川和樹・吉川百香 組
(愛知県)



稲垣 浩・伊藤千恵美 組
(北海道)

中部ブロック シニアII選手権



スタンダード表彰式



ラテン表彰式



山本 明・
山本晴美 組
(愛知県)

My Dream

北海道から参加、競技歴30年のベテランです。この日もA級戦スタンダード第6位、中部ブロック シニアII選手権スタンダード第3位に輝きました。今年だけで各種競技会に優勝1回、準優勝5回、第3位2回の好成績を挙げ、頑張っています。

「平成と共に歩んだダンスライフ」

北海道ダンススポーツ連盟

稲垣 浩(60歳)・伊藤千恵美(55歳) 組

平成元年、私たちは当時通っていたダンス教室でパートナーを紹介され、カップルデビューしました。競技会デビュー3戦目の北海道インターナショナル選手権スタンダードの部で、マークス・ヒルトン氏の単独ジャッジで、道内ただ一組決勝に進出しました。この大会が後の長い競技生活を続ける原動力の一つになっています。

平成6年、北海道にもアマチュア組織(Aリーグ)が結成され、北海道DSCの役員として20数年間携わりました。プロ団体の分裂、北海道DS連盟の設立など、ダンス界は激動の時代でした。現在は道DSCアドバイザーを務めています。

平成11年には北海道ブロック代表として三笠宮杯、都道府県対抗全国ダンススポーツ大会に初出場し、以降ほぼ毎年出場しています。

平成13年には東京オープン本戦に初出場し、WDSFの選手のパフォーマンスに感動しました。特にドメニコ・ソワレ組は小柄ですが素晴らしい踊りで、私達のような小さな選手(ちなみに私の身長は162cm)にはとても良いお手本でした。我が国最高峰の国際大会、

東京オープンには毎年欠かさず出場しています。

私は公益法人の試験研究機関で環境計量士として38年間勤め、昨年定年退職しました。在職中は出張等もあり、仕事と練習の両立には苦労しました。練習は週に3回程ですが、練習場には強化選手もおり、最新のテクニックやパワーを身近に感じることが出来、私達の競技力向上に大変役立っています。最近ではWDSFトップ選手の動画も手近に観ることが出来、良いお手本になっています。私のお気に入りにはソデイカ組とアベル組で、パートナーの伊藤さんはザルコフ組の踊りにはまっています。

近年はシニア部門の競技会もかなり充実してきており、全国各地での競技会出場も楽しみの一つとなりました。道外への移動もLCCスカイチケットの普及もあり大変助かっています。都道府県対抗戦をはじめ道外の競技会でも観客や選手の皆さんから温かい声をかけられたりすると、大きな励みとなり競技を続けていて良かったと思います。全国各地の皆さんとの交流も出来、正にJDSF全国統一級の本領発揮です。今後はオリンピック、国体参加の夢を是非、実現させていただきたいです。

平成と共に歩んできたダンスライフですが、年号が変わっても体力の続く限り、ダンススポーツがアンチエイジングの見本となるように続けていきたいと思っています。

第38回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権

JDSF
Japan DanceSport Federation

The 38th Imperial Highness Prince Mikasa Cup All Japan DanceSport Championships

JDSFダンススポーツランキングポイント取得競技会 / WDSF世界選手権代表選考

2018年11月25日(日) 8:45~19:40

駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館

◆東京都世田谷区駒沢公園1-1
(東急田園都市線駒沢大学駅徒歩15分、バス:恵比寿駅西口より 駒沢公園下車)

駐車場
あり

三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権
三笠宮杯PD全日本ダンススポーツ選手権(毎日新聞社杯併賞)
JOCジュニアオリンピックカップ全日本選手権ジュニア
毎日新聞社杯全日本選手権ジュブナイル



大会事務局: 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階公益社団法人日本ダンススポーツ連盟内「三笠宮杯実行委員会」

Tel:03-6457-1858 Fax:03-6457-1857

※電話でのお問い合わせは、13時~17時(土・日・祝日除く)にお願い致します。



ホームページ <http://www.jdsf.or.jp/>

主催: 公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) / 公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団 / 東京都ダンススポーツ連盟

特別協賛: **ブルボン**

特別後援: 毎日新聞社(申)

後援: スポーツ庁(申) / 東京都(申) / 公益財団法人 日本スポーツ協会(申) / 公益財団法人 日本オリンピック委員会(申)

おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。



ブルボンは、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の活動を応援しています。

ダンス・ダンス・ダンス
第88号 (SUMMER)

平成30年8月発行

■ 発行人 / 山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)

■ 編集長 / 神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)

■ 企画 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部

■ 発行所 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857

<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。